

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700088		
法人名	社会福祉法人百葉の会		
事業所名	グループホーム 百葉南部の郷		
所在地	山梨県南巨摩郡南部町南部 8058-1		
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月7日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設として地域行事参加、地域ボランティアの受け入れ、またグループホーム目標に掲げ自宅ではないがこの南部町で地域の一人としてここに居ると思ってもらえるようにしています。家族との結びつきも大事にしたいと2か月に1度南部の風を発行、笑顔で生活され楽しい行事にも参加されている様子をご家族に紹介しています。職員教育として職員に介護福祉士試験の促しや法人内の湖山カレッジ受講の促しを行っています。ターミナルの受け入れに伴いターミナル研修を実施したり色々なニーズに対応出来るように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は富士川右岸の桜並木が続く閑静な環境にある2階建てで、各階に1ユニットずつある。町のスポーツ広場や医療センターに隣接しており、これらの社会資源を積極的に活用している。法人理念の「にこやかで、個性豊かに」を実現するため、年ごとに職員全員で話し合い重点目標を決め、各自が具体的な行動計画を立てている。本年度は、①志を持った職員一人一人の意見で作上げるグループホーム、②お客様の生活にたくさんの笑顔を引き出すグループホーム、③地域密着施設としての役割を持つ、の3つを掲げている。また、目標達成値の評価を行い、それを職員間で共有し利用者の日々の支援につなげている。職員同士が学び合う土壌が作られており利用者はのびやかで個性豊かに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム百葉南部の郷			
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。] 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの目標として地域密着施設として地域行事の参加や地域に向けての発信をしています。家に居なくても地域の一員としてここに暮らしている事をお客様や地域に向けて発信しています。	理念を具体化するために、職員、利用者、地域の3つの視点から具体的目標を設定し、行動計画を立て、モニタリングを行っている。月1回の職員会議や毎日の申し送りに、意見交換や計画の進捗状況の確認をしながら理念を共有し、利用者への適切な支援を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアを毎月招いて交流をしています。近所の方だったり同級生だったり色んな方が来所されるので楽しみにしています。	毎月交流している地域ボランティアグループは多岐にわたり、行事委員の職員が交流会のコーディネイトをしている。隣接のゲートボール場から、地域の方が練習後に立ち寄り、併設のデイサービス利用者との交流もある。地域のお祭りに参加したり、年1回幼稚園児・中学生との交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	色んな研修を企画して地域のお客様と勉強会、防災訓練の計画をしています。グループホーム便りの中で研修会の紹介や感染症注意をしたりしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中でご家族様から色んな意見をいただきます。ケアについては介護職員がサービスについてはケアマネが介護保険については福祉保健課の担当の方が質問に答え、改善できる場所は会議の中で話しあっています。今年からケアについてこちらから提示もします	会議は2か月に1回実施し、ホームでの様子を伝えたり、会議出席者や家族からの質問を受けている。家族から利用者の食事内容の質問があり、すぐに献立表を月ごとに送付する対応を取った。各回ごとに福祉用具や、日々のケアの実際を知ってもらうよう努めており、次回は嚥下をテーマに開催する予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村で行われる研修に参加したりケアマネを通じ相談したり協力体制は取れていると思います。	市町村の開催する研修に参加したり、介護認定申請書類の提出などの機会に、担当者と話す機会を作るなど、日頃から関係づくりに努めている。包括支援センターとは主にケアマネジャーが対応し、事業所の情報を提供するなどして協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については日常的にはなしあいます。危険回避をする為に拘束にならないように話しあっています。	法人本部の研修に年2~3回代表が参加し研修内容は全職員に伝え、意識の向上に努めている。玄関の施錠、センサーマットの使用はもとより、日々の支援の中、利用者への言葉かけや支援方法に十分留意している。特に、言葉遣いは慣れあいにならないよう職員間で話し合い工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に行われる個人面談を通じて個々の悩みや思っている事を話し合い、解決している。何でも話せる環境を作っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士資格取得の勉強の中で学ぶ機会を作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂のあった時は説明会をひらいています。契約の解約後のフォロー声掛けして行っています。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人によるお客様アンケートを年に1階実施それを受けて話し合い、対策をたてお客様にフィードバックしています。毎年分析も行っています。	年1回、家族アンケートを法人本部が実施し、結果は法人を通して知らされ直ぐに対応している。また面会時なども利用者家族からの要望を聞き、その都度対応している。利用者からの外出、買い物などの希望や、家族から身体状況についての要望などが出され、それぞれケアに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や業務中の話の中や会議の中でなるべく職員の意見を聞くようにしています。稼働率の事や光熱費の事收支の状況等わかる事は職員に褒められることは特に話すようにしています。	管理者との個人面談は年2回あり、必要に応じて(異動・勤務体制など)顧問も加わり意見・希望を聞いている。日々のケアでの気づきや意見は申し送りや記録、リーダーに伝えている。食事、清掃などの負担軽減の要求があり、専門の清掃員の採用、食材の外注などの対応をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標の設定やそれについての面談を通じて向上心を持てるように支援しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標面談の中で苦手な事、興味のある事を話し合い研修計画に組み込んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で交換研修を行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴やバックグラウンドを調べ日常の会話の中に生かしている。その中で要望、や不安な事を聞きだすようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談、アセスメントで家族との関係作りをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時他職種と連携が取れるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の行事や料理は話を聞いて一緒に楽しめる様な企画を立てている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しの変化も家族に報告しています。家族の意向、ご本人の意向、家族の協力がどこまで出来るか確認しながら進めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加すると近所の方、同級生、知り合いの方と楽しそうに会話されています。地域ボランティアの来所も楽しみにしています。	ケアマネジャーが利用者一人ひとりの生活歴や情報を把握している。地域から忘れ去られることのないよう地域行事に積極的に参加したり、来訪したボランティアとの‘お話の時間’を設けるなどの工夫をしている。利用者の日常を知ってもらうためデイサービスの利用者との交流にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話や関係が円満になるように会話の中に職員が入り関わり合えるように支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談に乗れる体制を取っています。気になる方についてはこちらから連絡を取って経過を確認相談支援に努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様と会話する時間を作り行きたいところや食べたい物を聞いています。出来る事、出来ないことはありますがなるべく近づくようにしています。	ケアプラン作成時に利用者・家族の思いや意向を聞いている。日常のかかわりの中で、利用者本人が、どのように暮らしたいかの把握に努めている。自宅やお墓の様子を見に行きたいなどの希望は家族に協力を依頼したり、ドライブのついでに自宅近くを廻るなど思いに沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、バックグラウンドを家族に記入して頂き活用しています。日常の会話の中から拾い出す時もあります。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議の中で話しあったり、職員間であった事など申し送りノートに記入リアルタイムで現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、訪問ナース、家族、ケアマネ、必要なら主治医を交えて会議を行います。お客様の变化に遅れないようにケアマネに少しの変化でも報告しています。モニタリングは職員の担当が評価をしています	入居時、利用者本人、家族の希望を入れたアセスメントシートを作成した後、職員を交えてモニタリングを行い、訪問看護師の意見も反映した暫定プランを作成している。その後6か月ごとに見直している。現状に即した介護計画となるよう毎日の様子はモニタリング用紙・チェック表に記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や申し送りノートに気づきや工夫を記入しています。その情報は職員間で共有しています			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況やお客様の状況にあわせた支援が出来るようにしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	婦人部のボランティア、中学生のボランティアの受け入れを行っています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人家族がきめています。昔からの付き合いがあったりします。変化異常はすぐに主治医に報告出来るようになっていきます。	本人・家族の希望する、かかりつけ医となっている。入居前のかかりつけ医を希望する場合は、家族が受診支援しており、日頃の健康情報は書面で伝えている。診療所医師がかかりつけ医の利用者は月1回の往診を受け、健康管理の相談や必要に応じて薬の処方してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の日に相談指示をもらっています。そこから主治医に繋がる事もあります。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院相談窓口と密に連絡を取っています。退院時は担当者会議も行います。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナル、考えられる時は主治医、ナース、家族と方針に向けて話し合いを行います。なるべく自宅で過ごすのと同じようなターミナルをしたいとおまっています。お客様家族に最後はどこで迎えさせたいか聞いています。変更もありませんがここで最期までを望む方もおおいです。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について家族・本人の希望を確認している。実際に終末期に入ると医師も加わり担当者会議をきめ細かく持ち、家族の意向を確認している。隣接する医療機関との協力体制も整っており、家族が安心して納得できる看取りを支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を職員全員が取得しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防の協力を頂いています。夜間想定訓練も定期的に実施しています。	避難訓練を2か月に1回の頻度で実施している。その内2回は消防署の指導のもと、起震車体験、地震に関する研修を受けている。防災委員会を立ち上げ、計画に沿って実施している。水害対策については法人本部からの指示が来る予定で、具体的に検討しているところである。全職員は訓練を通じ、日頃からどう行動するか、シミュレーションしている。	様々な災害を想定し、一人ひとりの利用者の状態を踏まえた避難方法を検討し、全ての職員が具体的な避難方法を身に付けることが大切である。利用者の安全確保のため防災頭巾を備えたり、地域の協力体制を築く取り組みを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自らがうけたい医療と福祉の創造という理念があります。自分が受けていやなケア、言葉を使わない、しない対応をしています。	利用者、一人ひとりの人格を尊重することに努め、その人に合わせた言葉かけをしている。言葉遣いで強要することのないよう入浴・トイレ誘導の際も「どうしますか?」と利用者の決定を待つような配慮をしている。個人ファイル、ブログ、写真など個人情報の管理も徹底している。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いや希望を話せるようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ある程度の声掛けはしますがその日のご本人の希望に沿って生活してもらっています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る者、身に着ける者は自己決定できるお客様にはしてまらっています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レベル的に支度は難しいですが片付等は一緒に行っています。お誕生会には食べたい物を提供できるようにしています。	朝食・夕食は食材が配達され調理している。昼は隣接のサービス利用者と同じ食事が調理室より届く。可能な利用者は下膳を職員と一緒にしている。毎月1回の誕生会は、メニューに1品追加したり、外食(出前も含む)の機会を2か月に1回、設けて食事を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はしっかり把握できています。栄養バランスがとれるように声かけを行っています。水分量はチェック表を作り確認しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人一人誘導、声掛けしています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員のお客様の時間での声掛け、誘導を行う事によってオムツ、キャッチの使用を減らしています。訴えが無くても時間でトイレに座って頂いています。	排泄チェック表を使い一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者全員に、さりげなくトイレ誘導を行っている。各居室にトイレが設置されていることが、利用者は、排泄習慣やパターンを大切にでき、行きたいときにトイレに行ける安心感につながっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使ったおやつ提供、水分の声掛け時間でのトイレ誘導にて予防に取り組んでいます。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の意向を聞きながらの入浴誘導をしています。なるべく声掛けで入りたくなるような声掛けを考えて誘導しています。	毎日入浴できる体制になっており、毎日入浴する利用者もいるが平均的には2日に1回の入浴となっている。同性介護、入浴剤など一人ひとりの希望に応じた柔軟な支援を心掛けている。入浴を拒んでいた利用者も強要しない対応や言葉かけを工夫し、少しずつ入浴できるようになっている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度声掛けはしますがその日ご本人の希望に沿って生活してもらっています。時間の決まりはありますがご本人が休みたいと希望があれば居室にて休んでいただく事もあります。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様が飲まれている薬については薬情書を確認受診時に変化の報告が出来るようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はやって頂いています。少しの仕事でも自分の役割としてやって頂いています。それが張り合いになっていると思います。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は年間計画を作りそれに沿って行っています。施設内の職員協力の中行っています。お客様の希望で計画外の外出も行っています。	2か月に1回、外出行事を計画し、家族にも参加を呼び掛けて家族と共に、お花見、イチゴ狩り、紅葉狩り、公園での食事会などを楽しんでいる。その他、個別外出・買い物ツアーとして、道の駅、モール、100円均一店、レストランなどへ出かける際は、利用者2名に職員2名が付き添い支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は事務所預かり管理になっています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望があれば電話を家族にかける事は支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁面をフロア、玄関に飾ったり、フロアの温度設定、湿度に注意しています。居室入口ののれん、表札で生活感、季節行事の飾りもしています。	壁面委員の職員がフロア、玄関などに外出行事の際の'思い出写真'や手作りの壁飾りなどを飾り、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。室温・湿度は適切に調整され、週に1回、次亜塩素酸水を使ったの消毒・清掃など感染症対策にも配慮している。清潔に保たれた事業所内は、清掃専門の職員の努力が伝わってくる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話をするときはフロアで一人になりたい時は居室でと過ごせるようになっていきます。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたタンスや仏壇家族写真など持って来られています。ご本人ご家族に任せています。	居室内には、トイレ、洗面台、ベッド、クーラーなど備えてある。各居室は、利用者一人ひとりの個性や習慣を大切にして整えてあり、位牌・遺影、家族写真、自身の手芸作品など馴染みの品が置かれ、その人らしく居心地のよい居室づくりがしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は其の方が歩かれる距離や場所が無理が無いが、邪魔な物が無いが、考えています。居室からフロアまでの距離がリハビリに近々になります。			